

# 梅雨以降の大雨に対する技術対策

## 【果 樹】

- (1) 病害の発生に注意し、特にミカンでは黒点病・カンキツかいよう病、ブドウではべと病・晩腐病、カキでは落葉病・炭疽病、キウイフルーツでは果実軟腐病、イチジクでは疫病・黒葉枯病、モモ・スモモでは灰星病、ウメでは黒星病等の発生が多くなるため防除を徹底する。長雨時には適期防除ができにくい、降雨の合間に薬剤散布を行う。  
なお、傾斜地におけるスピードスプレーや防除の際には、作業道の状況を確認した上で事故のないよう万全を期して行う。また、降雨が続くと枝葉が軟弱に生育し薬害が生じやすくなるため、次のことに注意する。
  - (a) 薬剤の濃度は規定範囲内の薄い方で行う。
  - (b) 日中高温時の散布はできるだけ避け、朝夕の気温が低いうちに実施する。
  - (c) 散布量は過剰にならないようにする。
  - (d) 混用散布は避け、できるだけ単用散布とする。
  - (e) 病害の多発により早期落葉した園では、落葉の処分を徹底する。
- (2) 園内が長時間湛水すると根傷みによる樹勢低下を招きやすいため、明渠を設置し、過剰な土壌表面水を速やかに園外に排出する。
- (3) ブドウでは、急激な水分吸収により裂果を生じる恐れがあるため、園内への雨水の流入を防止する。
- (4) 崩壊した園地農道等は、天候回復後速やかに復旧作業をすすめる。集排水溝が土砂等より埋没しているところは直ちに取り除き、園内外の排水を良くする。
- (5) 土が流亡し、根が露出している場合は速やかに覆土を行う。
- (6) 根傷みや早期落葉等が激しい園では樹勢衰弱が予想されるため、摘果等による結果制限を行う。
- (7) 果実袋が破損した場合は、直ちにかけ替える。
- (8) 施用した肥料の流亡、雨に伴う低温による肥効の遅れが予想される場合は、地力や生育状況に応じ追肥量を加減する。根傷みが激しい場合は、少量の追肥や葉面散布を実施する。
- (9) 長雨後の高温および急激な土壌乾燥は、ブドウやキウイフルーツの葉焼け、元葉の落葉、果房・果実の日焼け、縮果症等の生理障害発生の原因となるため、かん水、敷わら、草刈り等を励行する。